

市民ワークショップ（2月開催）について

■開催日・会場・人数

- 平成29年2月18日（土）13：00～16：30（予定）
- 北海道大学学術交流会館（予定）
- 100名程度（無作為抽出による案内から選出）

■WSのテーマ

環境首都「SAPPORO(仮)」スタンダードを考える

- 将来像を自分事としてイメージする
- 将来像の実現に向け、環境の課題に対して自らできることを考える
- 札幌市の恵まれた環境を自覚し、その魅力を発信するための意識を向上させるための仕組みを考える

■WS開催の目的

- 将来像の評価（将来像をイメージできるかどうか）
- 市民が考える実現可能な環境に優しいライフスタイルの抽出
- 参加者の意識醸成と行動変容
- WSの開催による環境基本計画の考え方の共有（計画作成後の普及啓発のための布石）

■内容

- 開会、あいさつ、WSの目的の説明（10分）
- 情報提供①（20分）：環境基本計画（骨子案）について
 - 計画の概要（市民と一緒に作っていく計画であることをアピール）
 - 計画の位置づけ（関連計画との関係や議論したことを各計画に反映していくことを伝える）
 - 議論の経過（これまでの札幌の環境の歴史と現状、それを踏まえての将来像の検討）
 - 将来像のイメージ（1回目WSから将来イメージが作られてきた経緯などと併せ説明）
 - 課題と施策の柱
- 質疑応答：情報提供①の内容について（10分）
- アイスブレイク&WS①：環境基本計画の承認（30分）
 - 自己紹介、自分が行動している「環境にやさしいこと」
 - 情報提供①の説明に対する、市民の印象や意見、実現可能性
 - 皆で推進していくことの確認（方向性の確認）
 - 将来像への「良いと思った点」「もう一歩、と思った点」「追加したい視点」を議論

－休憩（5分）－

- WS①のまとめ：将来像への承認と共有（30分）
 - 各グループからの発表（上記3点を1グループ3分で発表）

• 情報提供②：事例紹介（10分）

国内外のサステナブルな取組の紹介、北海道の家庭での取組取組（実例紹介）

• 情報提供③：各テーブルでテーマごとに説明（10分）

a) 低炭素社会（電力・熱が届くまで、エネルギー消費状況）

伝えたいこと：化石燃料に依存している現実、エネルギー消費が多い現状の認識

議論の方向性：エネルギー転換、エネルギー消費の削減

b) 循環型社会（ごみ処理の現状、家庭ごみの分別の状況、排出ごみ量の推移）

伝えたいこと：更なるごみの削減や分別の必要性

議論の方向性：ごみの削減、分別の徹底

c) 自然共生社会（これまでの開発と都心部の緑被率の現状、世界の人口、大量消費社会など）

伝えたいこと：都心部のみどりを増やす必要性、大量消費型社会からの転換の必要性

議論の方向性：都心部緑化の推進、ライフスタイルの見直し

d) 横断的・総合的な取組（環境教育の取組や、マルチベネフィット、人口減少・少子高齢化 など）

伝えたいこと：環境教育の重要性、環境対策による副次的効果（地域コミュニティや経済影響等）

議論の方向性：効果的な環境対策の推進を図るための波及方法

• WS②：4つのテーマごとに、どうしたら意識の醸成や行動変容に繋がるのかという視点で、自分ができることを議論してもらおう（意見を出し合いながら、自分の取組目標も設定）（50分）

a) 低炭素社会

例：自分は（私は）、家庭向けの太陽光発電を普及させるために、近所の方に声をかけ、共同で太陽光発電を設置し、エネルギー転換を図ります。

b) 循環型社会

例：自分は（私は）、生ごみ削減のために、コンポストによるごみの減容化を試み、成功した暁には、町内会で導入促進の活動を実施します。

c) 自然共生社会

例：自分は（私は）、買い物袋を常に持参しレジ袋の使用は避け、余計な包装は遠慮するように行動し、家族や親せきにも勧めます。

d) 横断的・総合的な取組

例：自分は（私は）、家庭での環境意識を向上させるため、家庭でできる環境対策について学ぶとともに、家族に対してもその知識を広めます。

• 今日からできるエコなこと（未来の自分への公約）をシートに記入し、写真撮影（20分）

• まとめ・講評（10分）

• アンケート記入（5分）

WS後のフォローアップ調査

WSから？か月後、WS参加者に対してアンケート調査を実施。